

『チームNagasaki』

あじさいスタンダード

－徹底・継続－ で子どもはのびる!



長崎市教育委員会

あじさいは、長崎市花で、一つ一つの花の集合体で大きな花を咲かせます。
そのため、よく学級での子どもたちの姿に例えられています。

子どもたちは、一人一人違った花を咲かせます。子どもたちが美しい花を咲かせるためには、「土壌（学校）・水分（家庭）・日光（地域）」が必要なのは当然のことです。そして、この3要素のバランスが良好に保たれている環境の中で、私たち教師が、どのような形で子どもたちへ「肥料（愛情・指導）」を与えるかが大切になるのです。子どもたちが「学力」という確かな花を咲かせるために、与える肥料の「時・質・量」を間違えることは許されません。長崎市のすべての教師が「チームNagasaki」となり、「総がかり」で、次代を担う子どもたちの学力を保障していきましょう。

合い言葉は、『－徹底・継続－で子どもはのびる！』です。

この「あじさいスタンダード」は、長崎市内すべての小中学校の先生方に贈る授業改善の指針です。

- 授業づくりに悩む若い先生方は、明日の授業の参考に
- 経験を積んでこられた先生方は、若い頃学んできたことの確認に
- 校長・副校長・教頭・主幹教諭の先生方は、自校の先生方への指導の素材に

どの学校でも先輩から後輩へと語り継がれていたであろう指導技術に、新たな光をあてました。教師同士が、語り合うきっかけになれば幸いです。



『チームNagasaki』のびるプラン・・・P1～2

あ

あっという間に学びの世界へ

いつもの笑顔が、子どもの意欲に・・・P 3

授業に魅力ある導入を……………P 4

めあてが授業を左右する……………P 5



じ

じっくり考え しっかり学ぶ

よい発問は、授業の要……………P 6

ノートづくりに確かなルールを……………P 7

机間指導は、目的を持って計画的に…P 8

さ

さいごが肝心 学習のまとめ

板書は本時の学びの足跡……………P 9

子どもの目線で学習のまとめを……………P10



い

いかす評価で確実な力に

授業に確かな評価を位置づけて……………P11

家庭学習で、確実な力に……………P12

ふり返りは授業力向上の第一歩……………P13



－ 徹底・継続 － で子どもはのびる！・・・P14



【第4次総合計画】基本施策G1「次代を生きぬく子どもを育みます」

個別施策 G1-1「確かな学力の向上を図ります」

G1-2「健やかな心と体を育成します」

G1-3「家庭・学校・地域の連携による教育

【長崎市教育振興計画】

1 心の教育の充実

2 確かな学力の向上

【合い言葉】

『チームNagasaki』

(すべての人が総がかりで)

ー徹底・継続ー
で子どもはのびる！

【小中9年間を通して育てたい子ども】

- 学ぶ意欲があり、学習の習慣を身につけている子ども
- 基礎的基本的な知識や技能を身につけている子ども

◆基礎基本の徹底◆

ー学校ー

- 基礎基本の定着を図る工夫
・繰り返し学習
- 補充的な学習の充実
・スキルタイムの活用
・個別指導の充実

ー家庭ー

- 学習定着へのサポート
- 家庭学習（復習）の徹底

ー教育委員会ー

- 基本問題の蓄積と紹介
- 大学生等の学習支援事業

ー地域ー

- 子どもたちへの学習支援

◆思考力・表現力等の育成◆

ー学校ー

- 各教科における言語活動の充実
- 体験活動の充実
- 読書活動推進と学校図書館の活用
- 発展的な学習の充実

ー家庭ー

- 親子読書の奨励

ー教育委員会ー

- 優れた指導事例の把握と普及
- 体験活動補助事業の推進
- 学校図書館司書の配置

ー地域ー

- 豊かな体験の場の提供

◆学習意欲の向上◆

ー学校ー

- 学習意欲が高まる授業
- わかる喜びが実感できる授業
- シラバス、手引き書の作成
- 家庭学習課題の工夫
- コメントの工夫

ー家庭ー

- 賞賛と励まし
- 親の学ぶ姿勢

ー教育委員会ー

- ICT機器活用の推進

ー地域ー

- 地域のもの、人等の教材化

『学 び を 支 え』

◆学 校◆

- 学校規律の確立
・集中できる落ち着いた雰囲気づくり
・チャイムスタート等のルールづくり
- 教師と児童生徒の好ましい人間関係の構築
- 児童生徒間の認め合う雰囲気の醸成

◆家 庭◆

- 基本的な生活習慣づくり
・早寝 早起き 朝ご飯
- 自立へのサポート
- 学校公開等への参加
- 読書環境づくり

のびるプラン

で長崎市の子どもたちを伸ばす学力向上プラン

長崎市学力向上プラン

5年後にめざす姿「子どもが将来の夢や希望を自らの言葉で語り、実現に向けて努力している」

の充実を図ります」

G1-4「子どもが安全・安心に学べる教育環境を整備します」

- 3 健やかな体の育成 5 教育環境の充実
4 信頼される学校づくりの推進

- 問題に対し、学んだことを活用して解決法を導くなど問題解決力を身につけている子ども
- 自分の考えを論理的にまとめ、しっかりと表現できる子ども

第4次総合計画

【成果指標】

全国学力・学習状況調査の結果で
全国平均以上の項目の割合
目標値100%

◆学習時間の確保◆

- ー学校ー
 - 日課の工夫
 - ・モジュールの効果的な挿入
 - ・朝自習、放課後等の学習補充
 - 長期休業の活用
 - ・個に応じた学習補充
- ー家庭ー
 - 家庭学習の習慣化
 - ・場所と時間の確保
- ー教育委員会ー
 - 長期休業中の授業実施承認
 - ・学校行事等の実施
- ー地域ー
 - 学童、放課後クラブでの学習

◆教師の指導力向上◆

- ー学校ー
 - 校内研究の充実による授業改善
 - 日々の授業の工夫
 - ・一人一人の子どもへの対応
 - ・ICT機器活用
- ー教育委員会ー
 - 体系的な教職員研修の実施
 - 研究委託
 - 学校訪問の充実
 - 指導主事の派遣
 - 「あじさいスタンダード」策定
 - ICT機器活用事例の紹介
- ー地域ー
 - 地域人材の活用

◆指導体制の充実◆

- ー学校ー
 - 校内指導体制の工夫
 - ・少人数指導、TT等の工夫
 - ・管理職等の授業参加
 - 特別支援教育の充実
 - 国際理解教育の推進
 - ・外国語活動
- ー教育委員会ー
 - 加配教員の適正配置
 - 少人数学級編制
 - 特別支援教育支援員の配置
 - ALT、インストラクター配置
 - 小中一貫教育の推進
- ー地域ー
 - 学校関係者評価の充実

『素地づくり』

◆地 域◆

- 地域行事での社会性育成
- 地域の方々の学校教育への協力
- 地域の安全確保
- 地域各団体（自治会、育成協等）の連携

◆教育委員会◆

- 学校への支援
 - ・学習空間、教材教具等の整備
- 子どもの学力、生活習慣に関する情報発信
- 幼保小連携
- ファミリープログラム

健やかな心と体の育成

あ っという間に学びの世界へ いつもの笑顔が、子どもの意欲に

教師の笑顔が、豊かな学びを生みます

- 教師の「笑顔」は、子どものやる気を高める
- 教師の「言葉」は、子どもにとって最高の言語環境
- 教師の「間」は、授業に緊張感を生み出す



子どもたちは、教師の姿をよく見ています。教師は、自分の悩みや疲れを、子どもたちの前で出してはいけません。教師の技の中で、最も難しく、最も影響を与えるのが「表情・口調・態度」なのです。

■ポイント

豊かな表情がやる気を高めます

- ・教師の笑顔の果たす役割は大きいものです。教師がいつも不機嫌な表情でいては、子どもたちはたまりません。
- ・「大好きな先生」がいつもにこにこしていたら子どもたちもやる気になるはずです。特に、帰りは笑顔で送り出しましょう。

教師の有効な言葉かけ

- ・子どもにやる気を起こさせる言葉は、『賞賛・共感・励まし』の言葉です。

すごいね、よくがんばったね、大丈夫、さすが、やったね、なるほど
もう少しでできる、あなたならできる、一緒にやろう、まだやれる など

「間」が、授業をつくります

- ・熱心な教師ほど、話しすぎる傾向があります。子どもたちの活動が停滞し、反応が鈍いと不安を感じ次から次に言葉を発してしまい、特定の子とのやりとりになってしまいがちです。
- ・子どもたちへの対応で大切なのは「間」です。「間」は「待つ」と言ってもいいでしょう。授業には、適度の緊張感が必要です。そのためには、しっかりと考えることができる静かな時間と空間を子どもたちに保障しましょう。



子どもへの「指示」の仕方、活動が違ってきます



効果的な指示とは、どんな指示でしょう

- ◇一指示一動作（一度に複数の指示をしない）
- ◇簡潔な言葉で（何のために行うかの説明も）
- ◇具体的な内容を（場所・数・人・もの・方向等）
- ◇明るくはっきりした声で（表情豊かに）
- ◇全員に出す（全員が注目してから）
- ◇活動中に指示の変更はしない（追加・言い換えもしない）



あ っという間に学びの世界へ 授業に魅力ある導入を

子どもたちを学びの世界に呼び込むのが導入です

- 手ぶらで授業にのぞまない
- 子どもの興味・関心と結びつけて考える
- めあてやまとめを意識した導入を考える



授業は、導入によって決まります。子どもと学習内容との出会いが豊かなものになるように導入を工夫したいものです。

■ポイント

はじめの一步を大切にしましょう

- ・導入で子どもたちをあっと思かす仕掛けを考えるのは、教師の醍醐味です。
- ・授業の第一声、板書の書き始め、始めに何を資料提示するかをじっくり考え、授業にのぞみましょう。

子どもたちの興味・関心と結びつけましょう

- ・身近な素材や子どもたちの学校生活場面、ICT機器の活用など子どもたちの興味や関心と結びつけた導入を仕掛けます。
- ・子どもたちの知的探求心と指導内容との接点を考えることが大切です。

学習のめあてとまとめを意識しましょう

- ・本時の学習のめあてを意識し、めあてにつなぐ導入をします。本時の学習の核心は何かをさりげなく意識させ、学習のめあてにつながっていくようにします。
- ・導入からまとめまでの流れをイメージすることです。本時のまとめ（出口）を意識した導入（入口）を考えることです。



日頃からネタ探しをすることが大切です



わくわくドキドキする導入を

- ◇魅力ある導入によって、本時の学習の核心がはっきりし、子どもたちが、わくわくドキドキするような意欲が持続します。そのためには、教師が日頃からアンテナを張りめぐらせて、ネタ探しをすることです。

あ っという間に学びの世界へ めあてが授業を左右する

ゴールを見据えた学習課題(めあて)をつくりましょう

- 欲張らず、指導内容を整理する
- 子どもの発想・思い・関心を生かす
- 学習課題を学習評価に結びつける



学習課題は、子どもが自由につくるものではありません。また、教師が一方的に与えるものでもありません。学習課題は、子どもと教師の共同の営みから生み出されるものです。よって、綿密な計画のもと学習課題をたてる場面へのぞむことで、目指すゴールへ向かって学習のスタートを切ることができます。

ポイント

授業後の子どもの姿を想定しながら指導内容を整理する

- ・ 身につけさせたい力を『本時で習得させる力』、『継続して習得させる力』の2つに分類し、それぞれの特徴に合わせて授業後の子どもの姿を想定しましょう。
- ・ 授業にあたって十分に教材研究をすることは当然のことですが、教材研究をすることでつい、あれもこれもと教える内容を増やしてしまいがちです。教材研究をする時には、子どもたちに身につけさせたい力は何かを整理して学習課題を構想しましょう。その「何か」は学習指導要領に示されています。

子どもの発想・思い・関心を生かす

- ・ 授業では、想定した授業後の子どもの姿を考慮しながら子どもの思い・発想・関心などを生かして学習課題をつくります。ここは教師の腕の見せ所です。子どもとともに学習課題を練り上げましょう。
- ・ 学習課題をつくる場面での子どもの思いや関心は導入に大きく左右されます。学習課題をつくる場面を想定した導入も併せて構想しておく必要があります。

学習評価と結びつける

- ・ 学習課題の追求過程で、子どもたちがゴールに向かっているかを見極めましょう。ゴールに向かっていない子どもにはゴールを向くための支援をしましょう。学習課題と結びつける評価で重要なことは、ゴールに向かうスピードや最短距離を進んでいるかを評価するのではなく、ゴールに向かう過程を評価し、その都度軌道修正することです。



学習課題は子どもと教師が共同で生み出すものです



子どもと一緒に設定した学習課題をチェックしてみましょう

- ◇ 子どものこれまでの体験や経験した事実を根拠としていますか？
- ◇ 子どもなりの予想や見通しをもって持続して追求できるものですか？
- ◇ 子どもの知的好奇心や価値観、切実感に支えられたものですか？
- ◇ 子どもが努力すれば達成できる難易度ですか？





じっくり考え しっかり学ぶ

よい発問は、授業の要

発問で授業の成否は決まります

- 「よい発問」と「悪い発問」があることを自覚する
- 発問の3つの姿を意識して使い分ける
 - ① 確かめる発問 ② 焦点化する発問 ③ 思考を広げる発問

自分が知らないことを尋ねるのは「質問」です。授業で教師が行うのは、質問ではありません。「発問」です。発問によって子どもたちの理解度を確認し、新たな発見に導き、本時の学習内容を習得させるのです。そのためには「よい発問」が必要です。よい発問は授業の要なのです。



ポイント

「よい発問」と「悪い発問」

- ・今日の授業の発問が「よい発問」だったのか「悪い発問」だったのかを振り返ることから始めましょう。基準は明解。その発問で子どもたちの思考が活性化されたかどうかです。
- ・「よい発問」は思いつきでは生まれません。深い教材研究、明確な教材観、子どもたちの実態把握によって生み出されます。そのためには教師自身が学ばなくてはならないのです。

発問の3つの姿を意識して授業にメリハリを

- ・『確かめる発問』は、既習内容を確認したり、全員に確実に気づかせたりするための発問です。重要事項を確認し、ほぼ全員が自力解決できるであろう事項を問います。
- ・『焦点化する発問』は、学習のねらいに直結し、深く考えさせるための発問です。いわゆる主発問、中心発問といわれるものです。本時の学習のねらいに直結した問いとなります。当たり前を疑う問い、ゆさぶりをかける問いによって、子どもたちの思考は焦点化します。
- ・『思考を広げる発問』は、多様な考えを引き出したり、新たな視点で物事を捉えさせたりする発問です。自分の思いや考えをしっかりとめさせるために大事にしたい問いです。



発問の3つの姿（参考例）

確かめる 発問	ごんは、どこに住んでいたと書いてありますか。（国語） 寒冷前線が通過するとき、気温と湿度はどのように変化するだろうか。（理科）
焦点化す る発問	消防士さんは火事がないとき、何もすることがないでしょうね。（社会） 家族ではなく、一つの花を見つめながら戦争に行くのは変ですね。（国語）
思考を広 げる発問	「海の命」とは何だと考えられますか。（国語） 式と答えに合うような問題をつくってみましょう。（算数）

じっくり考え しっかり学ぶ ノートづくりに確かなルールを

ノート指導を工夫しましょう

- ノートの使い方を発達段階に応じて設定する
- ノートには教師の思いや願いをコメントとして書き記す



各学年の終わり、あるいは小学校6年生や中学校3年生の理想のノートを目指して指導してみましょう。子どもに「こんなノートをつくってほしい」という教師の願いやビジョン、手本となるモデルを示すことが必要です。急がず、あわてず、教師があきらめなければ、子どもたちのノートは確実に変わります。

ポイント

発達段階に応じてノートの使い方を決めましょう

- ・子どもの発達段階や実態、特性などに合わせて、マスの大きさや罫線の幅など適切なノートを使うように指導しましょう。
- ・発達段階や教科の特性に応じて、書く内容やレイアウト、書き方を明確にし、根気強く指導しましょう。また、筆箱の中に入れておく物についても気を配りましょう。

<書く内容の例>

日時、めあて、予想や見通し、自分の考えや友だちの考え、まとめ、ふり返り（学習感想）など

<書き方の例>

えんぴつで書く、下敷きを使う、線は定規を使って引く、大事なところは色ペンで囲む、蛍光ペンで字は書かない、消しゴムは使わない、のりの使い方 など

- ・小学校高学年以降は、自分なりの気づきをメモしたり、教師の言葉の大事な事柄をポイントとしてまとめたりするなど、ノートづくりに工夫を加えるよう指導しましょう。
- ・書く内容や書き方のルールを子どもと共に確認するガイダンスを行いましょう。子どものノートを本人の了解を得て、紹介することも効果的です。

ノートを評価資料として活用しましょう

- ・子どものノートのよいところはどんどんほめて、コメントなどを残しておきましょう。
- ・ノートからは子どもの実態や変容をとらえることができます。それは教師自身の授業への評価にもつながります。



思考力・判断力・表現力を育てるノートへ



ノートにはこんな機能があります！

- ◇学習内容の理解を助け、定着させる
- ◇考えを広げたり、深めたりする
- ◇考えを整理でき、表現活動にも役立つ
- ◇学習の軌跡となり、学びに連続性が生まれる
- ◇学習状況が把握でき、評価資料となる
- ◇家庭学習につながり、保護者の協力が得られる



じっくり考え しっかり学ぶ

机間指導は、目的を持って計画的に

机間指導の目的を明らかにしましょう

- 子どもの学習状況を把握する
- 子どものつまずきに応じて、個別に指導する
- 机間指導で得た情報を次の学習展開に活用する



「机間指導」は文字通り『指導の場』です。「机間指導」に目的をもち、充実させることによって、子どもたちの学びを深めることができます。机間指導は、一人一人に目を向ける大切な個別指導の場なのです。

■ポイント

学習状況を把握しましょう

- ・限られた時間内でどのようなコースで机間指導するか、あらかじめ計画しておきましょう。本時のねらいに沿って、明確な意図をもつことが大切です。
- ・機を逸することなく、全体及び個々の学習状況を把握しましょう。個別に指導したり、全体へ働きかけたりするなど、状況に応じて、適切な指導方法を選択することが大切です。

机間指導は、個別指導の場です

- ・予想される指導の手立ては事前にいくつか準備しておきましょう。
- ・助言だけでなく、賞賛や共感、励ましの言葉をかけましょう。
- ・赤ペンで○や線、コメントを記すことも効果的です。
- ・教えなければならない場面では、ためらわずしっかりと教えましょう。

次の学習展開につなげましょう

- ・あとの展開の中で取り上げたい考えなどを机間指導の中でつかんでおきましょう。
- ・机間指導は「いかす評価」を行うためにとても重要な機会です。

TTのよさを生かしましょう

- ・TTでの指導が可能な場合は、個別に支援を要する子どもや担当する指導場面の分担を明確にしましょう。2人で指導することで相乗効果を生み出しましょう。



机間指導の中で子どもを励まそう



こんな机間指導ができればいいな！

- ◇ 1単位時間の中では、子どもと個別に話をする時間は限られています。机間指導の中で一人一人への肯定的な声かけを行うことによって、子どもたちのやる気や教師への信頼感を高めることができます。次の展開へ向けた発言を促したり、自信をつけさせたりすることも可能です。



いがが肝心 学習のまとめ

板書は本時の学びの足跡(あしあと)

板書は子どもたちと教師で織りなす学びの軌跡です

- 学習の最終板書をイメージし、授業を構想する
- 子どもたちの思考の流れを構造的に可視化する
- 文字の色や大きさ、配置や書き始めの位置にもこだわる



板書は、授業の思考活動を視覚化し、本時の学習（思考・判断・表現）の足跡を構造的に表現するものです。板書を見れば、1時間の学習が分かるものです。板書計画をしっかりと立てて子どもたちの記憶に残る板書を心がけましょう。

ポイント

本時のゴールからさかのぼって授業を構想する

- ・本時に身につけさせたい力は何かを考え、学習の最終板書をイメージし、そこからさかのぼって授業を構想します。

学習内容や展開に沿って構造的に表現する

- ・本時に身につけさせたいものを大きく目立つように配置し板書します。
- ・ホワイトボード、短冊、ネームプレート等を活用し、子どもたちの意見や考えを板書に反映させましょう。

文字の大きさや色を適切に使い分ける

- 『大きさ』：発達段階によって文字の大きさを変えます。強調したいところは、大きく表現しましょう。文字は上手に書けなくても楷書で丁寧に書きましょう。
- 『色』：白チョークは、通常。黄チョークは、重要（強調）。などと約束事を決めておきましょう。カラーユニバーサルに配慮し見やすい板書にしましょう。
- 『記号等』：矢印や枠囲みなどを活用し、子どもたちの思考の流れを視覚化しましょう。



アナログとデジタルの利点を生かした活用が鍵



手書き黒板と電子黒板の効果的な活用を

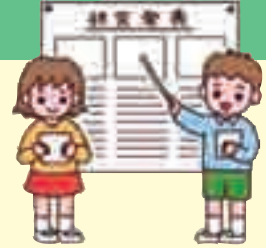
- ◇ デジタルテレビや書画カメラ等を効果的に活用し、板書との関連を図りましょう。
- ◇ 電子黒板の使用は、活用する場面を絞り込んで使いましょう。
- ◇ 手書きや子どもの文字とICT機器でしか表現することができない動画や子どものノートなどを上手く組み合わせ相乗効果を生み出しましょう。

さ いごが肝心 学習のまとめ

子どもの目線で学習のまとめを

まとめのない学習は未完成です

- 学習のめあてに沿ってまとめる
- 子どもの意識に沿ったキーワードでまとめる
- 教えるべきことは、しっかり教える



めあてを意識した授業を展開してきたら、最後は学習のまとめが必要です。めあてに正対したまとめがあつてこそ、その一時間の学習が完結するのです。

ポイント

板書にめあてとまとめを位置づける

- ・板書の中に「めあて」と「まとめ」をきちんと位置づける習慣をつけましょう。
- ・枠囲みをしたり、チョークの色を決めておいたり、マグネット付きのプレートを用意したりして、ノートにも確実に書かせるようにすると定着します。

子どもの言葉やキーワードを上手に使いましょう

- ・授業で出てきた子どもの言葉を取り入れたり、よい気づきや発見をした子どもの名前を使って「○○さん方式」などつけてまとめたりすると、楽しい雰囲気になり、記憶に残ります。
- ・重要用語やキーワードを強調したり、箇条書きなどをして端的にまとめたりすると、わかりやすいまとめとなります。絵や図を用いる工夫も効果的です。

教えるべきことは、しっかり教えましょう

- ・子どもの意見や発言を上手に使ってまとめをするのは大切ですが、教えるべきことは確実に教えなければなりません。教師がしっかりと教えるべきことをもっておくことが大切です。そのためには、十分な教材研究が必要なのです。
- ・しかし、「教えること」は、教師が一方向的に教えたい事項を機械的に覚え込ませることではありません。子どもたちが十分に納得し、深く理解できるよう指導技術を磨きましょう。



子どもの心に残る学習のまとめ



子どもが家に帰ってから・・・

- ◇家で「今日は学校で何を教わったの？」と問われた子どもは何と答えるでしょう？ 子どもの答えが、今日の学習のまとめです。「忘れた」では悲しいです。「ごんぎつね」とか「かけ算」だと大まか過ぎます。「ごんの優しさがつぐないをする行動から分かったよ」とか「かける数が1より小さいときにはね・・・」と語る姿を描きましょう。中学生でも深く心に残った学習は、授業の後でもその話題が続くものです。



かす評価で確実な力に

授業に確かな評価を位置づけて

学習評価は学力の定着のためにあります

- 個々の子どもの学力把握が個に応じた細やかな学習指導につながる
- 学習評価は無理なく日常的に行う
- 学習評価を授業改善に生かす



評価は、個々の学力把握のために行います。評価をそのつど学習指導に活用し、子どもに還元してこそ意義があります。今、評価の効果を最大限に生かし、日々の授業の中で効率的に行うことが求められています。

■ポイント

『のこす評価』と『いかす評価』を適切に使い分ける

- 『のこす評価』：（記録に残す評価）記録を残して学習過程の中で子どもの変容・到達度を見る評価です。総括的な評価の根拠になります。
- 『いかす評価』：（授業に生かす評価）授業の中で子どもたちの様子・到達度を見極める評価です。その場で個に応じた指導を行ったり、次の授業計画の修正を行ったりするための評価になります。

授業を構想するときに評価場面を設定する

- ・『のこす評価』は単元を見通した評価計画を立てて行い、評価に追われないように工夫することが必要です。また、『いかす評価』の場面は、授業を構想する時に併せて設定することが評価を効率的に行う第一歩です。

評価する観点を絞り込む

- ・無理なく日常的に評価をするには、1 単位時間の中で4つの観点を評価するのではなく、その授業で評価する観点を絞ることが大切です。



計画的な評価が負担軽減の鍵



計画的な評価のメリット

- ◇見通しをもって評価場面を精選できる。
- ◇重要な評価場면을逃さず設定できる。
- ◇4つの観点や残す評価と生かす評価などのバランスをとることができる。
- ◇指導と評価の一体化を図ることができる。





かす評価で確実な力に

家庭学習で、確実な力に

確かな学習の保証には、家庭学習の習慣化が重要です

- 『やる気』『場所』『時間』の確保を
- 学校で学習したことを家庭で復習→「確実な力に」
- 次時の学習内容を予習→「明日への自信に」



確かな学習の保障には、日々の授業の充実と家庭学習の習慣化が重要です。家庭からの信頼と協力を得て、学校と家庭が組織的に取り組むことが望まれます。時間がかかっても丁寧に根気強く指導していく必要があります。

ポイント

学習への『やる気』の確保

- ・ 一定の時間内に、自分の力で解決できるなど「成就感」を味わえる学習課題を設定することが大切です。
- ・ 学校では、教師が家庭学習の状況をしっかりと把握し、適切な点検・評価を行いましょう。「いつも見てるよ。」というメッセージやコメントを毎日送り続けましょう。

学習する『場所』の確保

- ・ 子どもたちが一番集中できる場所を家庭で話し合うことが大切です。
- ・ 周りの大人の目が行き届き、机の上は学習用具だけが準備されているなど、集中して学習できる場所を確保しましょう。小学校では食卓やリビングなど子どもたちが安心できる場所でもいいでしょう。

学習する『時間』の確保

- ・ 子どもたちの生活のリズムの中で一番集中できる時間帯を家庭で話し合うことが大切です。テレビやゲームなどとの「ながら学習」をさせないようにしましょう。
- ・ 小学校段階では、大人も何かの用事を行って、お互い仕事や学習をする共有の時間帯を確保するのもいいでしょう。中学校段階では、中間・期末考査の前には学習計画を作成させ、個別にアドバイスするのも効果的です。



家庭学習の時間は・・・

学年 時間	小学校6年生			中学校3年生		
	市	県	国	市	県	国
3時間以上	9.6	7.6	11.4	8.3	7.4	10.2
2～3時間	14.4	15.3	14.3	27.2	26.8	25.5
1～2時間	31.9	39.0	32.6	31.5	34.0	30.7
30分～1時間	31.1	27.9	26.5	17.2	18.6	16.7
0～30分	13.0	10.2	15.2	15.8	13.2	16.9

【平成22年度全国学力・学習状況調査から】

家庭学習時間のめやす（1日平均）	
小学校	中学校
低学年：30分～1時間	1学年：2時間～2時間半
中学年：1時間～1時間半	2学年：2時間～2時間半
高学年：1時間半～2時間	3学年：2時間半～3時間

※塾等での学習時間も含めています。
【子どもの学びの習慣化（長崎県教育委員会）から】

◇家庭学習の時間は、学年や子どもの実態に応じてさまざまです。長崎市の子どもの実態や長崎県のめやすを参考にして適切な時間を設定しましょう。



かす評価で確実な力に

ふり返りは授業力向上の第一歩

自分の授業をふり返ってみましょう

- 授業力向上のため、チェックシートで授業をふり返る
- 子どもたちの学力向上へ「チームNagasaki」で取り組む

確かな学力の定着を図るためには、教師が「授業力」を向上させ、日々の授業を改善し、わかる授業を行うことが必要です。「授業力」とは、授業を通して、子どもたちに確かな学力を定着させる力であると考えています。

日々の授業をよりよいものにしていくために、チェックシートでふり返ってみましょう。また、他の先生方と授業を参観し合い、みんなで授業改善に取り組んでみましょう。

※このチェックシートに取り上げている項目は、授業に必要な事柄のほんの一部にすぎません。もちろん、この他にも授業の土台として、「望ましい学習規律の定着」、「子どもたちの実態把握」、「十分な教材研究」などが大事であることはいうまでもありません。

あじさいスタンダードチェックシート

あ	笑顔で子どもに接し、やる気を起こさせる言葉かけができましたか。	
	魅力ある導入、子どもを引きつける導入ができましたか。	
	身につけさせたい力を明確にして、めあてが設定できましたか。	
じ	発問の3つの姿を意識して、意図的に使い分けることができましたか。	
	ノートの使い方は定着してきていますか。	
	意図的・計画的な机間指導ができましたか。	
さ	授業の終わりの板書を見て、授業を思い起こすことができましたか。	
	めあてを意識したまとめができましたか。	
い	評価場面を決めて、授業を行いましたか。	
	家庭学習にメッセージやコメントを記すことはできましたか。	
	自らの授業を評価し、授業改善に向けて努力していますか。	



教師は「授業」で勝負！



あなたも「チームNagasaki」の一員です！みんなで授業力を高めましょう！

◇授業力は、「子どもたちの状況や特性を的確に理解する力」や「教材や資料を分析し、適切に選択・活用する力」、「単元や単位時間のねらいを明確にし、計画する力」、「子どもたちの反応や状況を判断しながら、適切に授業を展開する力」など、さまざまな「力」が組み合わさった総合力と考えることができます。さらに、授業力を支えているものは、授業改善への意欲や謙虚な姿勢、子どもたちへの深い愛情や理解、教職に対する使命感や情熱、豊かな人間性などであるといえます。みんなで授業について考え、力を合わせて「授業力」の向上に努めましょう。

おわりに

長崎市立各小・中学校の取組

ー徹底・継続ーで子どもはのびる!

学力向上！各学校の主な取組ベスト5

【小学校】

1	読書活動	56.2%
2	家庭学習	41.1%
3	発表・話し合いの充実	39.7%
4	基本的な生活習慣	31.5%
5	学習の手引き発行	30.1%

【中学校】

1	家庭学習	48.8%
2	TT・個別指導	39.0%
3	読書活動	36.6%
4	発表・話し合いの充実	31.7%
4	補習等の実施	31.7%

【平成22年度全国学力・学習状況調査の結果に基づく課題改善の取組（長崎市）から】

小中学校共に学力向上対策として数多く実践されているものは、「発表・話し合いの充実」「読書活動」などの言語活動の充実にかかる内容と「家庭学習」「補習等の実施」「学習の手引き発行」などの基礎・基本の定着にかかる内容の2点です。

校種間の違いは、小学校は「読書活動」と「基本的な生活習慣」を、中学校は「TT・個別指導」と「補習等の実施」を取り上げている学校が多いことです。

学力向上対策は、全校で足並みをそろえて取り組むことが大切です。自校では、何を『そろえる』ことが効果的なのかを明確にし、全職員での実践をお願いします。

全校で取り組んでいる具体的な内容

【学校独自のテスト】

- 月末・単元末・週末テスト
- 定期100問テスト
- 漢字コンテスト
- 漢字・読解・計算小テスト
- 毎時間小テスト
- 社会科・漢字・日本地図検定

【学習時間の確保】

- 長期休業中の補習
- 定期放課後学習会
- 基礎・基本の時間（モジュール）
- 基礎・基本の時間（1単位時間）
- 個別質問教室
- 個別添削指導

【言語活動の充実】

- 朝の会・短学活等でのスピーチ
- 日記・ノート指導
- 音読教室
- 俳句活動
- 新聞活用

【その他】

- 学習規律シート
- 学習ガイド・家庭学習の手引き
- 集会等でのノー原稿スピーチ
- 家庭学習コンクール
- 大学生・地域ボランティアの活用



効果的な家庭学習のために

- ◇家庭学習徹底のために学校全体で取り組んでいる事項
 - 学習の量や内容 ●宿題パーフェクト運動 ●宿題忘れ0運動 ●家庭学習カード
 - 月末保護者コメント ●生徒用学習の手引き ●毎日宿題・毎日提出 など
- ◇家庭学習時間の目安（各学校の例）
 - （小）●低→30分 中→45分 高→60分 ●低→30～60分 中→60～90分 高→90～120分
 - （中）●1・2年→2時間、3年→3時間 ●学年+1時間 など
- ◇家庭学習と関連して徹底している事項
 - 早寝・早起き・朝ご飯 ●前日準備 ●筆箱整理 ●毎日読書 ●睡眠時間 など

『チームNagasaki』で真の学力向上をめざして

「－徹底・継続－で子どもはのびる!」をキーワードにして、長崎市の子どもたちの学力を保障するための小冊子『あじさいスタンダード』を作成しました。読んでいただき、どのような思いを抱かれたでしょうか。

「昔、先輩から厳しく指導されたことを思い出した。」

「私の日頃の実践と似ている。自信をもって続けていこう。」

「そうか、こういう考え方があったのか。参考にしよう。」

しかし、本当に私たちが望んでいた感想は、つぎのようなものだったのです。

ここに書かれていることは、皆、知っているし、実践していますよ。

本来ならこのような指導技術集ではなく、もっと骨太の、もっと核心をついた教育指針や理念を示すべきなのかもしれません。しかし、そこへ至るための出発点として、教師としてのスタンダード（標準）をしっかりと確かめることが必要であると考えたのです。指導技術の奥にある指針や理念まで読み取っていただけたら幸いです。

最後に、『チームNagasaki』の「チーム」について記しておきます。

チームとしてイメージできるのは、まずは「学校」です。校内研修や学校内での磨き合いを深めてほしいものです。もちろん、同学年や同じ教科という、より親密なチームもあるでしょう。

また、他校との連携や小・中連携というチームもあるでしょう。同じ中学校区や隣接の学校との間で、お互いの授業を参観し合う関係ができれば、発達段階に応じた指導方法の違いや、連携して指導すべきことなどを理解でき、そのことで「学びの連続性」が生まれ、学習効果の高まりが期待できるはずです。

さらに、自主的な学び合いの仲間もチームになります。学校が違ってても教育のことで話ができる、学習指導の話題で熱く語り合える、という仲間がいるのは、教師としての成長にとって何よりの栄養です。

様々な場で、様々な形の『チームNagasaki』をつくって教師力を磨き合いたいものです。

子どもたちにとって価値ある教師でありたい

この一点においては、経験年数も役職も関係ありません。学校も教育委員会も同じ思いです。長崎市全体が大きな『チームNagasaki』となり、子どもたちの真の学力向上をともにめざしましょう。

『チーム Nagasaki』
あじさいスタンダード
－ 徹底・継続 － で子どもはのびる！

【発行年月】 平成24年3月

【編集・発行】 長崎市教育委員会 学校教育部 学校教育課
〒850-8685 長崎市桜町2番22号
TEL095-829-1195



長崎の市花は「あじさい」

ホームページは「あじさいワールド」

夏休みの学習帳は「あじさいノート」

そして今

長崎市の子どもたちの学力を保障する

学びのスタンダードができました

その名も「あじさいスタンダード」

日々の授業に使えるヒント集です